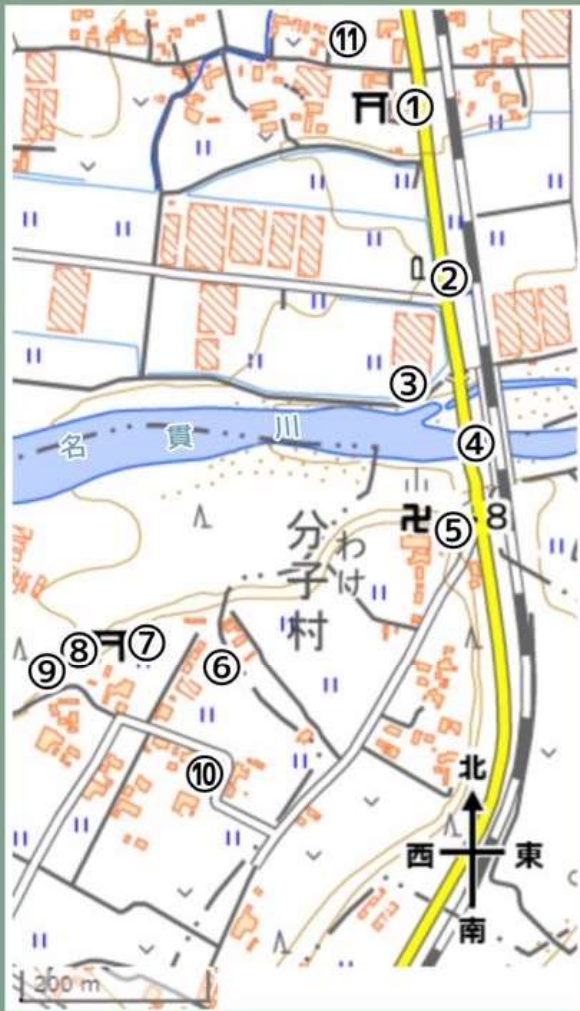


地域資源マップ



①八坂神社



賽銭箱が置かれていなくて、神主も不在だった。鳥居にはクモの巣が張られていたが、境内は雑草が生い茂っている様子はなかったため、あまり人は訪れていないのだろうが、定期的に掃除がされているのだろう。境内にあった石碑の文字は擦れていて読めなかったが、おそらく、境内にある他の八坂神社や京都の八坂神社本社の分社であると考えられる。

②記念碑



これは、都農町設立記念の石碑だ。そこに書かれている文字は薄くなっており読み込み不可能であったが、おそらく都農町長が建設したものだと思われる。道路脇にひっそり佇んでおり、石碑の周辺には草が生い茂っていた。そのため石碑には近づきにくく、わざわざ立ち寄って見る人もいないと思われる。

③捨てられたトマト



ビニールハウスの横に大量に廃棄されたトマトが転がっている。思わずもったいない！捨てるくらいなら配って下さい、なんて言いたくなるほどのトマトの山だ。見たところでは規格外にも見えぬ。なぜおおいそうなトマトが捨てられて山になっているのか。実は野菜は供給量が多くなると価格が下がってしまうため、人件費や容器、輸送費を考えると出荷せずに廃棄したほうがコストがかからずに済んだりする。無料で配ったところで、育てるためにかかったコストも回収できないため廃棄しているのだとか。この他にも大根やナス、収穫の時期を過ぎてしまっている放置されるネギボウズなどが見られた。

④名貫川



名貫川から北が都農町、南が川南町とされているそう。川の水は川底が見えるほど澄んでいて綺麗な見た目が、流れははやいため、近づくのは危険だと思われる。今回の調査範囲には、この川を渡るための橋は「とんはし」の1本しか無かった。加えてこの橋にはガードレールどころか歩道らしい歩道がなく、その割には車の通行量が多かったため、歩いて渡るにはかなり危険な橋だった。現在、新しい橋を建設しているようなので、もっと安全になると良いと思う。

⑤徳泉寺とカッパ塚



道元が祖である曹洞宗のお寺。寺社内には共同墓地があり、遺骨ではなく遺灰が納められていた。都農町以外の場所から足を運んで来られた方にお話を伺うと、和尚さんが寺にいらなくても、いつでもお堂の中に入ってお参りすることができるということ。また、徳泉寺には有名な河童の伝説がある。かつて名貫川には農作物を荒らす河童がいた。あまりに河童のいたずらが過ぎるため、和尚は村人と共に退散祈願を行い、その後河童は悪さをすることができなくなったという。この伝説をつたえて、寺を少し下った坂道の脇にはカッパ塚が建てられている。徳泉寺は、津波避難場所にも指定されている。

⑥いちご農家



作業をしていたいちご農家さんとお話を伺った。農業はまだ1代目で、結婚をきっかけに「子育てと両立しやすいそうだから」と夫婦で就農されたそう。いちごは就農してからコストの回収までが短いことや、売上を計算しやすく安定した収益を上げやすいことから新規参入には人気の作物であるとされている。ビニールハウスでは機械作業も取り入れられており、新しい技術も上手く活用されていると感じた。ハウスでは甘くて酸味の少ない、九州各地で栽培されるさかほのかを栽培されているとのことだった。

⑦御年神社



公民館と民家の間にある神社。神主はおらず、お隣の家の方(おそらく町内会の総代)が管理をされている。鳥居に飾られている注連縄は、人が入るの届むかのように垂れ下がっていた。入って良いかどうかわからなかったため中の様子を見ることは諦めたが、境内は雑草に掃除されているように見えた。通りすがった近隣の方のお話によると毎年7月10日と12月10日にお祭りが行われているとのこと。12月10日の祭りでは神楽を舞うらしい。川南町内には他にも同名の神社が存在する。

⑧公民館



地域の人々は月一で公民館に集まり草刈りや農作業の設備についての話し合い、御年神社(⑦参照)のお祭りにむけた準備をするそう。このように集會を定期的に開催することで、地域内の各世代の方が出会う機会となり、コミュニティの強化に繋がっていると考えられる。住民の方のお話によるとやはり高齢者の多い地域だと感じられたが、公民館での集會には比較的若い層も参加しているようだった。

⑨トントロンバス



公民館の前には吉ひたバス停があり、「トントロンバス」と書かれている。地域の方にお話を伺ったところ、このバスは通常の運行とは別に「オンデマンド運行」が実施されているらしい。オンデマンド運行とは、電話で予約して乗車するシステムである。利用する人の要望に応じて乗り合せ、利便性の向上や交通空白地域の解消を目的として設けられたが、予約や利用者登録などの手続きが面倒で、このあたりの地域では利用する人は少ないとのことだった。トントロンという名称の由来については、西南戦争の際に敗走する西郷隆盛の一行がめぐるんだ地を「トントロン」と言っていたという説や、湧水があり水の音がタラタラン、トントロン、と聞こえたという説がある。外観のようでかわいらしい響きだと感じた。

-感想-

名貫川を境にして北を川北(都農)、南を川南と言い、今回私たちのグループはほぼ両方でフィールドワークを行った。道を歩いていると何回か声をかけて頂くことがあり、この辺りに住んでいる方々の人柄の良さを感じた。また、こちらから声をかけた場合も快く対応してくださり、様々なお話を聞くことが出来た。地域間での交流も多いようで、近所の方と親しげに会話をしている様子もあった。都農町には農家が多いので、自給自足や農家間での相互扶助で成り立っている部分があるのではないかとと思われる。地域住民の方との対話を通して、都農町の歴史や行事ごとについて知ることができ、新たな魅力を見ることが出来たと思う。一方で、いくつか課題も見つかった。今回発見した課題は、生活を楽にするためのコミュニティバスがあまり利用されていないということと耕作放棄地が少々見られたということだ。地域住民の方々とは違う視点から、何か解決策や応用の仕方を考えていきたいと思った。今回のフィールドワークでは、実際に現地に行くことや会話・インタビューの大切さがよく分かった。今後は質問の内容をもっと掘り下げたものができるようにしていきたい。

⑩自動販売機



今回、私たち19班が調査した範囲には店が1軒もなく、自動販売機もこの1台限りであった。さらにこの自動販売機も、設置はされているものの頻繁に使われているような形跡はなかった。もしこのあたりを地域を訪れるのであれば飲み物は持参が必要である。

⑪ひまわり畑



他の班の調査範囲にもいくつかあったように、ここにもひまわり畑があった。平成22年に口蹄病が発生したことをきっかけに牛・豚の堆肥の堆肥が使用できなくなったため緑肥用にひまわりを栽培する農家が増えたと見られる。調査したのは5月の下旬と、ひまわりが咲くにはまだ早い時期だったにも関わらず一面に咲いていたので、宮崎の温暖な気候が関係していると考えられる。

○川南町について

今回私たちが調査した地域には都農町だけでなく川南町が含まれており、お話を伺った方の多くは川南町の住民であった。川南町は太平洋戦争後、食糧増産と復興軍人・海外引揚者・戦災被害者の働き口を作るために国営開拓事業地区となり、全国の農民や満州開拓団の引揚者、都農町など近隣の町で訓練していた落下傘部隊の兵隊が集まり、兵舎に暮らしながら厳しい開拓に従事したという歴史がある。水不足・火山灰性の土壌・過剰な灌漑の問題を抱え、離農者も多かったことを踏まえてその開拓の難度の高さと規模の大きさをから日本三大開拓地と呼ばれる。開拓者の出身地が全都道府県に及ぶことから「川南合衆国」とも呼ばれたそう。現在は畜産や農業、工業など幅広く産業が盛んな町であり、県内で4番目に小さい地域ながら、児湯郡の産業の中心地となっている。開拓により新規参入した祖先を持つ住民が多いことから、農村地域としては比較的移住や新規就農する人間、所謂余所者にも寛容であると言われる。